

私はなぜVEを学ぼうと思ったか

フクダハウジング株式会社 代表取締役社長

木津 広美 VEL



私は、1995年にVELに合格しました。VE学習のきっかけは、会社方針でもなければ、上司や友達からの勧めでもありません。では、なぜ私は自らVEを学ぼうと思ったのか、その目的と手段について書きたいと思います。

元々、私は20代前半までバドミントン一筋の人生で、東京で実業団選手として過ごしていました。引退後はコーチにでもなろうかと漠然と考えていましたが、途中で気が変わり、スポーツで培った経験を転職先のゼネコンで生かしたいと思うようになりました。しかし、自分ではそう願ってはいたものの、実際は厳しい現実が待ち受けていました。

なぜなら、会社の同僚たちと比べ、私は仕事面での専門知識や経験が明らかに不足していました。トップアスリートの多くがセカンドキャリアでつまずくのは、選手時代の高揚感と引退後の喪失感とのブレ幅が大きすぎて、人生の再スタートが切りづらいという要因があります。当時の私も同じで、「中途採用の即戦力として、**どんな価値**を提供できるか」と自分に問うた時、自信を持って答えられるものが何もありませんでした。

そんなある日、では「価値とは何か」を納得するまで深く掘り下げて考えてみたいという感情が湧いてきました。何の根拠もなく、人生のヒントになりそうだと直感的に思ったのです。ただし、一口に「価値」と言っても人によって捉え方が異なるため、そもそも論として私はまず、単純なことから知りたいと思いました。例えば、「価値の有無は誰がどう判断するか」「価値の大小は測定可能なか」「M社のバリューセットはどこにバリューがあるのか」「どこかの団体の審査・許可なしに、自社商品に勝手にバリューがあると表示していいか」等です。

周囲の誰に聞いても、どこを調べてもなかなか納

得のいく答えは見つかりませんでした。たまたま上司と雑談をしている時に「VEがあるよ」とアドバイスをもらいました。当時は社内にVEに詳しい社員がいなかったため、その上司から鹿島建設VE室の上野室長（当時）を紹介していただき、翌週、私は一人ドキドキしながら東京に向かいました。とにかく価値に対して好奇心むき出しの私ですから、自費で新潟～東京間を往復することも、出産直後の試験勉強も特にストレスなくやり遂げることができました。そしてVEL合格後は、仕事やプライベートなど身近な場所でVE理論を生かし、少しずつ自信と成果を生み出し、現在の私があります。

現在のわが国のVE普及は、ファンが増大しているとは言い難い状況にあります。そこで、私が数年前に「説明力」の講師資格を取得した際、とても興味深い話があったのでご紹介したいと思います。

まず、**一般人や初心者**を相手にした時、初回から「VE理論を説明する」ことに囚われ、専門用語を使い過ぎてしまうと逆に伝わりづらく、受講者にとっては退屈な時間となりがちです。そのため、できるだけ相手の知っている言葉で表現します。中学生を相手にした時は中学生が理解できる言葉で、なぜVEなのかという「本質的な部分をしっかり伝える」、つまり初回においては相手にいかに興味を抱かせるかがポイントになります。ただ、これはあくまでも一般人等を相手にした時の話で、企業内のVE試験対策や大学の講義はこの限りではありません。

今後さらなるVEの普及・発展に向けて、われわれ資格取得者がやるべきことは、まずは身近な人たちにVEの魅力を分かりやすく伝え、大いなる関心を持っていただくことだと思っています。私も精一杯がんばっていく覚悟です。みなさまもご協力をお願いいたします。
(筆者は当会理事)